

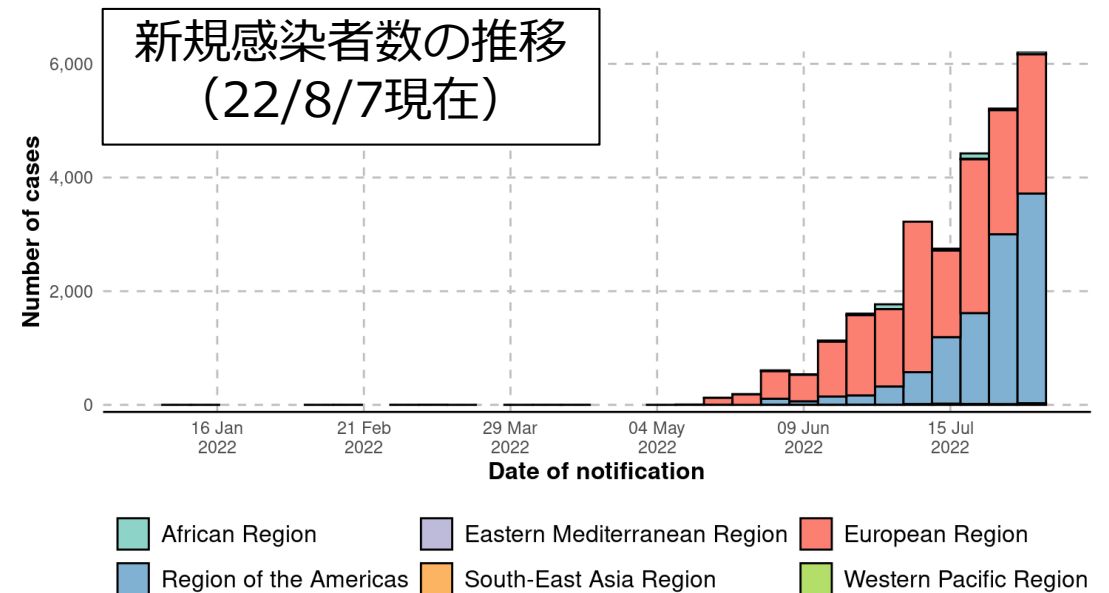
# サル痘の流行状況

本資料の最終更新日：2022/8/13

- 2022年5月からサル痘の感染例が欧米地域を中心に、全世界的に報告されている。

- 22/7/23：WHOにより緊急事態宣言が発表される。
- 22/7/25：日本国内で初のサル痘感染事例が報告される。
- 最近の欧米でのサル痘の感染者の多くは欧米由来の感染。  
イギリスで確認された事例の87%はヨーロッパ由来。[Girometti+, 2022]

- WHO Webページ：  
[https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\\_global/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/) (22/8/13参照)
- N. Girometti et al., “Demographic and clinical characteristics of confirmed human monkeypox virus cases in individuals attending a sexual health centre in London, UK: an observational analysis”, The Lancet Infectious Diseases, 2022.



# サル痘感染者に現れる症状

本資料の最終更新日：2022/8/13

## ● サル痘感染者に現れる症状

- 発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感（3日程度）
- 上記症状の後に全身に発疹が現れる症状が起こる。（右図：実際の事例の写真）
- サル痘の症状の多くは天然痘に類似しているが、異なる点としてリンパ節障害もサル痘では現れることがわかっている。

## ● 致死率：1%～10%程度



[Adler et al., 2022 より]

- N. Kumar et al., “The 2022 outbreak and the pathobiology of the monkeypox virus”, Journal of Autoimmunity, vol. 131, p. 102855, 2022.
- H. Adler et al., “Clinical features and management of human monkeypox: a retrospective observational study in the UK”, Lancet Infectious Disease, 2022.
- N. Girometti et al., “Demographic and clinical characteristics of confirmed human monkeypox virus cases in individuals attending a sexual health centre in London, UK: an observational analysis”, The Lancet Infectious Diseases, 2022.

## ● サル痘の主な感染経路：接触感染・飛沫感染

- 感染者、感染動物の病変や血液への接触、感染者の介護作業時の飛沫暴露などが原因。
- 潜伏期間が長く（5～21日）、飛沫感染も感染経路であるため、3密を避けることはサル痘の対策としても有効。
- 性交渉もサル痘の感染経路である可能性が指摘されている。
  - 性交渉に限らず、感染者あるいは感染の疑いがある人と近距離で接する機会は感染リスクが高い。
- 空気感染（エアロゾル感染）は主な感染経路としては考えられていない。

- N. Kumar et al., “The 2022 outbreak and the pathobiology of the monkeypox virus”, Journal of Autoimmunity, vol. 131, p. 102855, 2022.
- WHO Webページ： [https://www.who.int/health-topics/monkeypox#tab=tab\\_1](https://www.who.int/health-topics/monkeypox#tab=tab_1) （22/8/13参照）
- WHO Webページ： <https://www.who.int/news-room/questions-and-answers/item/monkeypox> （22/8/13参照）

- **サル痘の感染経路として「性交渉」が指摘されている。**

- MSM (men who have sex with men : 男性間性交渉者) のコミュニティで複数のサル痘感染事例が報告されている。
  - 従来サル痘が流行していた地域の滞在経験のない人が多く、コミュニティ内部での感染拡大と考えられる。
  - 性感染症の症状であるヘルペスなどと発疹が類似することが適切な対応を促し、多くの報告例につながっている。

- サル痘は性感染症ではない。

**性交渉の際に感染者の病変に接触することや、感染者から放出された飛沫を吸引することが感染の原因である**と考えられている。

(そのため、女性の感染率が低いというわけではない。)

- WHO Webページ : <https://www.who.int/news-room/questions-and-answers/item/monkeypox> (22/8/13参照)
- N. Girometti et al., “Demographic and clinical characteristics of confirmed human monkeypox virus cases in individuals attending a sexual health centre in London, UK: an observational analysis”, The Lancet Infectious Diseases, 2022.

# サル痘感染者に現れる症状②

本資料の最終更新日：2022/8/13

- [Girometti+, 2022] にはMSMまたはバイセクシャルの方でサル痘に感染した方の分析結果が示されている。

- Invasive Phase：発熱、倦怠感、筋肉痛が3日程度
- Eruptive Phase：Invasive Phaseの後に発疹が現れる。

表：[Girometti et al., 2022] での分析結果の一部（n=54）

症状	割合
複数の発疹が確認された	89%
男性器 or 肛門付近に発疹が確認された	94%
腕や足、手に発疹が確認された	27%
顔面に発疹が確認された	20%

- 他の論文では、腕や足、手、顔面などに発疹が確認された事例の方が多い。
- 先行研究との傾向の違いは、性感染症などの治療を扱う部門の患者が分析対象であることが影響しているか？

- N. Girometti et al., “Demographic and clinical characteristics of confirmed human monkeypox virus cases in individuals attending a sexual health centre in London, UK: an observational analysis”, The Lancet Infectious Diseases, 2022.